

2月中旬～3月下旬にかけて旬を迎えるヒロメ。幅が広く最大1mほどにまで成長する大型の海藻で、その見た目から一つの葉=ヒトハメとも呼ばれる。(写真はほぼ原寸大)

# 海の生態系と漁業を守り 県内外へ発信を続ける 里海づくり

WAKAYAMA 海の恵み

【田辺市・ヒロメ】

日本におけるナショナル・トラスト運動先駆けの地である田辺市。自然との共生を目指す意識が根付いた地域で“里海づくり”に精力的に取り組んでいるのが新庄漁業協同組合だ。

里海づくりとは陸地から沿岸域を人の手によって「一体的に管理し、自然環境を保全する」こと。温暖化の影響などから、田辺湾でも磯焼け現象が発生している中で「2012年頃からヒジキやヒロメを増殖させる藻場造成を行っています」と代表理事組合長の橋智史さんは話す。水産資源の恵みを受けるために、まず多くの水産生物を支える藻場を元に戻そうと、いう試みで、岩場の洗浄などを行い、スポアバッジや種糸を設置して、人工的に繁茂させてきた。

「ヒジキやヒロメが育つと海の生態系にも良い影響をもたらします。特にヒロメはブルーカーボン吸収源としても期待されています。特にヒロメはブルーカーボン吸収源としても期待されています。特にヒロメはブルーカー

ラボ代表の山西秀明さんは、「ヒロメは県南部の限られた地域でし

か育たないワカメに似た海藻だが、2010年頃をピークに収穫量が減少。山西さんは田辺市を拠点にヒロメの研究を行いながら、同組合の准組合員に加わり共に活動している。

さらに、同組合ではこれまで藻場の保全を通じた漁場の維持に加え、牡蠣などの養殖、一般向けの漁業体験や観察会の開催、シーカヤックといったブルーツーリズムにも力を入れてきた。そんな一連の取り組みが認められ、2024年、第29回全国青年・女性漁業者交流大会で、水産庁長官賞を受賞。「海の生態系を守りながら、担い手を増やすことも大切。」里海づくりの取り組みが5年後、10年後へと繋がるように、できることを増やして漁村を元気にしていく」と橋さん。今後は、生物多様性の保全が図られている区域“自然共生サイト”的認定を目指すという。同組合は、人と自然の共生、地域環境の持続を図りながら、柔軟なチャレンジを続けていく。

## 郷土の味覚として愛される 多彩なヒロメの魅力

柔らかくてとろみがあり、シャキシャキとした独特の歯ごたえと旨味が特徴のヒロメ。ミネラルを多く含み、とろみの源である食物繊維・フコイダンや抗酸化作用のあるフコキサンチンなど栄養が満点。大半が地元で消費され、田辺市では昔から春の味覚として親しまれている。芯までおいしく食べることができ、みそ汁や煮物はもちろん、酢の物やしゃぶしゃぶもおすすめ。

①②旬に食べたいヒロメのしゃぶしゃぶ。生のままでは茶色のヒロメが、サッと湯通しすると鮮やかな緑に。③ヒロメの酢の物はあっさりしながら食べ応えがあり、酢との相性も抜群。おろし生姜と相まって爽やかな味が楽しめる。

日本におけるナショナル・トラスト運動先駆けの地である田辺市。自然との共生を目指す意識が根付いた地域で“里海づくり”に精力的に取り組んでいるのが新庄漁業協同組合だ。

里海づくりとは陸地から沿岸域を人の手によって「一体的に管理し、自然環境を保全する」こと。温暖化の影響などから、田辺湾でも磯焼け現象が発生している中で「2012年頃からヒジキやヒロメを増殖させる藻場造成を行っています」と代表理事組合長の橋智史さんは話す。水産資源の恵みを受け

るために、まず多くの水産生物を支える藻場を元に戻そうと、いう試みで、岩場の洗浄などを行い、スポアバッジや種糸を設置して、人工的に繁茂させてきた。

「ヒジキやヒロメが育つと海の生態系にも良い影響をもたらします。特にヒロメはブルーカーボン吸収源としても期待されています。特にヒロメはブルーカー

ラボ代表の山西秀明さんは、「ヒロメは県南部の限られた地域でし

か育たないワカメに似た海藻だが、2010年頃をピークに収穫量が減少。山西さんは田辺市を拠点にヒロメの研究を行いながら、同組合の准組合員に加わり共に活動している。

さらに、同組合ではこれまで藻場の保全を通じた漁場の維持に加え、牡蠣などの養殖、一般向けの漁業体験や観察会の開催、シーカヤックといったブルーツーリズムにも力を入れてきた。そんな一連の取り組みが認められ、2024年、第29回全国青年・女性漁業者交流大会で、水産庁長官賞を受賞。「海の生態系を守りながら、担い手を増やすことも大切。」里海づくりの取り組みが5年後、10年後へと繋がるように、できることを増やして漁村を元気にしていく」と橋さん。今後は、生物多様性の保全が図られている区域“自然共生サイト”的認定を目指すという。同組合は、人と自然の共生、地域環境の持続を図りながら、柔軟なチャレンジを続けていく。

博物学者・南方熊楠が昭和天皇を迎えたことで有名な、国の天然記念物・神島にほど近い岩礁で、ヒジキを選別して刈り取る橋さん。



①②③ヒロメの収穫と加工工程。①ヒロメを収穫する。②ヒロメを水槽で洗浄する。③ヒロメを切って、袋詰めする。

新庄漁業協同組合  
住所／田辺市新庄村2827-3  
電話／0739-22-2057



①②③④ヒロメの収穫と加工工程。①ヒロメを手で採る。②ヒロメを水槽で洗浄する。③ヒロメを切って袋詰めする。④ヒロメを水槽で育てる。

ヒロメラボ  
住所／田辺市神島台24-18  
電話／0739-20-4281

日本におけるナショナル・トラスト運動先駆けの地である田辺市。自然との共生を目指す意識が根付いた地域で“里海づくり”に精力的に取り組んでいるのが新庄漁業協同組合だ。

里海づくりとは陸地から沿岸域を人の手によって「一体的に管理し、自然環境を保全する」こと。温暖化の影響などから、田辺湾でも磯焼け現象が発生している中で「2012年頃からヒジキやヒロメを増殖させる藻場造成を行っています」と代表理事組合長の橋智史さんは話す。水産資源の恵みを受け

ために、まず多くの水産生物を支える藻場を元に戻そうと、いう試みで、岩場の洗浄などを行い、スポアバッジや種糸を設置して、人工的に繁茂させてきた。

「ヒジキやヒロメが育つと海の生態系にも良い影響をもたらします。特にヒロメはブルーカーボン吸収源としても期待されています。特にヒロメはブルーカー

ラボ代表の山西秀明さんは、「ヒロメは県南部の限られた地域でし

か育たないワカメに似た海藻だが、2010年頃をピークに収穫量が減少。山西さんは田辺市を拠点にヒロメの研究を行いながら、同組合の准組合員に加わり共に活動している。

さらに、同組合ではこれまで藻場の保全を通じた漁場の維持に加え、牡蠣などの養殖、一般向けの漁業体験や観察会の開催、シーカヤックといったブルーツーリズムにも力を入れてきた。そんな一連の取り組みが認められ、2024年、第29回全国青年・女性漁業者交流大会で、水産庁長官賞を受賞。「海の生態系を守りながら、担い手を増やすことも大切。」里海づくりの取り組みが5年後、10年後へと繋がるように、できることを増やして漁村を元気にしていく」と橋さん。今後は、生物多様性の保全が図られている区域“自然共生サイト”的認定を目指すという。同組合は、人と自然の共生、地域環境の持続を図りながら、柔軟なチャレンジを続けていく。

博物学者・南方熊楠が昭和天皇を迎えたことで有名な、国の天然記念物・神島にほど近い岩礁で、ヒジキを選別して刈り取る橋さん。



①②③ヒロメの収穫と加工工程。①ヒロメを収穫する。②ヒロメを水槽で洗浄する。③ヒロメを切って袋詰めする。

新庄漁業協同組合  
住所／田辺市新庄村2827-3  
電話／0739-22-2057

ヒロメラボ  
住所／田辺市神島台24-18  
電話／0739-20-4281

日本におけるナショナル・トラスト運動先駆けの地である田辺市。自然との共生を目指す意識が根付いた地域で“里海づくり”に精力的に取り組んでいるのが新庄漁業協同組合だ。

里海づくりとは陸地から沿岸域を人の手によって「一体的に管理し、自然環境を保全する」こと。温暖化の影響などから、田辺湾でも磯焼け現象が発生している中で「2012年頃からヒジキやヒロメを増殖させる藻場造成を行っています」と代表理事組合長の橋智史さんは話す。水産資源の恵みを受け

ために、まず多くの水産生物を支える藻場を元に戻そうと、いう試みで、岩場の洗浄などを行い、スポアバッジや種糸を設置して、人工的に繁茂させてきた。

「ヒジキやヒロメが育つと海の生態系にも良い影響をもたらします。特にヒロメはブルーカーボン吸収源としても期待されています。特にヒロメはブルーカー

ラボ代表の山西秀明さんは、「ヒロメは県南部の限られた地域でし

か育たないワカメに似た海藻だが、2010年頃をピークに収穫量が減少。山西さんは田辺市を拠点にヒロメの研究を行いながら、同組合の准組合員に加わり共に活動している。

さらに、同組合ではこれまで藻場の保全を通じた漁場の維持に加え、牡蠣などの養殖、一般向けの漁業体験や観察会の開催、シーカヤックといったブルーツーリズムにも力を入れてきた。そんな一連の取り組みが認められ、2024年、第29回全国青年・女性漁業者交流大会で、水産庁長官賞を受賞。「海の生態系を守りながら、担い手を増やすことも大切。」里海づくりの取り組みが5年後、10年後へと繋がるように、できることを増やして漁村を元気にしていく」と橋さん。今後は、生物多様性の保全が図られている区域“自然共生サイト”的認定を目指すという。同組合は、人と自然の共生、地域環境の持続を図りながら、柔軟なチャレンジを続けていく。

博物学者・南方熊楠が昭和天皇を迎えたことで有名な、国の天然記念物・神島にほど近い岩礁で、ヒジキを選別して刈り取る橋さん。



①②③ヒロメの収穫と加工工程。①ヒロメを収穫する。②ヒロメを水槽で洗浄する。③ヒロメを切って袋詰めする。

新庄漁業協同組合  
住所／田辺市新庄村2827-3  
電話／0739-22-2057

ヒロメラボ  
住所／田辺市神島台24-18  
電話／0739-20-4281

日本におけるナショナル・トラスト運動先駆けの地である田辺市。自然との共生を目指す意識が根付いた地域で“里海づくり”に精力的に取り組んでいるのが新庄漁業協同組合だ。

里海づくりとは陸地から沿岸域を人の手によって「一体的に管理し、自然環境を保全する」こと。温暖化の影響などから、田辺湾でも磯焼け現象が発生している中で「2012年頃からヒジキやヒロメを増殖させる藻場造成を行っています」と代表理事組合長の橋智史さんは話す。水産資源の恵みを受け

ために、まず多くの水産生物を支える藻場を元に戻そうと、いう試みで、岩場の洗浄などを行い、スポアバッジや種糸を設置して、人工的に繁茂させてきた。

「ヒジキやヒロメが育つと海の生態系にも良い影響をもたらします。特にヒロメはブルーカーボン吸収源としても期待されています。特にヒロメはブルーカー

ラボ代表の山西秀明さんは、「ヒロメは県南部の限られた地域でし

か育たないワカメに似た海藻だが、2010年頃をピークに収穫量が減少。山西さんは田辺市を拠点にヒロメの研究を行いながら、同組合の准組合員に加わり共に活動している。

さらに、同組合ではこれまで藻場の保全を通じた漁場の維持に加え、牡蠣などの養殖、一般向けの漁業体験や観察会の開催、シーカヤックといったブルーツーリズムにも力を入れてきた。そんな一連の取り組みが認められ、2024年、第29回全国青年・女性漁業者交流大会で、水産庁長官賞を受賞。「海の生態系を守りながら、担い手を増やすことも大切。」里海づくりの取り組みが5年後、10年後へと繋がるように、できることを増やして漁村を元気にしていく」と橋さん。今後は、生物多様性の保全が図られている区域“自然共生サイト”的認定を目指すという。同組合は、人と自然の共生、地域環境の持続を図りながら、柔軟なチャレンジを続けていく。

博物学者・南方熊楠が昭和天皇を迎えたことで有名な、国の天然記念物・神島にほど近い岩礁で、ヒジキを選別して刈り取る橋さん。



①②③ヒロメの収穫と加工工程。①ヒロメを収穫する。②ヒロメを水槽で洗浄する。③ヒロメを切って袋詰めする。

新庄漁業協同組合  
住所／田辺市新庄村2827-3  
電話／0739-22-2057

ヒロメラボ  
住所／田辺市神島台24-18  
電話／0739-20-4281

日本におけるナショナル・トラスト運動先駆けの地である田辺市。自然との共生を目指す意識が根付いた地域で“里海づくり”に精力的に取り組んでいるのが新庄漁業協同組合だ。

里海づくりとは陸地から沿岸域を人の手によって「一体的に管理し、自然環境を保全する」こと。温暖化の影響などから、田辺湾でも磯焼け現象が発生している中で「2012年頃からヒジキやヒロメを増殖させる藻場造成を行っています」と代表理事組合長の橋智史さんは話す。水産資源の恵みを受け

ために、まず多くの水産生物を支える藻場を元に戻そうと、いう試みで、岩場の洗浄などを行い、スポアバッジや種糸を設置して、人工的に繁茂させてきた。

「ヒジキやヒロメが育つと海の生態系にも良い影響をもたらします。特にヒロメはブルーカーボン吸収源としても期待されています。特にヒロメはブルーカー

ラボ代表の山西秀明さんは、「ヒロメは県南部の限られた地域でし

か育たないワカメに似た海藻だが、2010年頃をピークに収穫量が減少。山西さんは田辺市を拠点にヒロメの研究を行いながら、同組合の准組合員に加わり共に活動している。

さらに、同組合ではこれまで藻場の保全を通じた漁場の維持に加え、牡蠣などの養殖、一般向けの漁業体験や観察会の開催、シーカヤックといったブルーツーリズムにも力を入れてきた。そんな一連の取り組みが認められ、2024年、第29回全国青年・女性漁業者交流大会で、水産庁長官賞を受賞。「海の生態系を守りながら、担い手を増やすことも大切。」里海づくりの取り組みが5年後、10年後へと繋がるように、できることを増やして漁村を元気にしていく」と橋さん。今後は、生物多様性の保全が図られている区域“自然共生サイト”的認定を目指すという。同組合は、人と自然の共生、地域環境の持続を図りながら、柔軟なチャレンジを続けていく。

博物学者・南方熊楠が昭和天皇を迎えたことで有名な、国の天然記念物・神島にほど近い岩礁で、ヒジキを選別して刈り取る橋さん。



①②③ヒロメの収穫と加工工程。①ヒロメを収穫する。②ヒロメを水槽で洗浄する。③ヒロメを切って袋詰めする。

新庄漁業協同組合  
住所／田辺市新庄村2827-3  
電話／0739-22-2057

ヒロメラボ  
住所／田辺市神島台24-18  
電話／0739-20-4281

日本におけるナショナル・トラスト運動先駆けの地である田辺市。自然との共生を目指す意識が根付いた地域で“里海づくり”に精力的に取り組んでいるのが新庄漁業協同組合だ。